

25

滋賀

子ども農業塾
～地域で必要とされ続
けるJAであるために～

JA レーク滋賀

たむら あきこ
田村 亜紀子

子ども農業塾

地域で必要とされ続ける
JAであるために

はじめに

1. 志津地区の現状
 2. 志津地区における課題の整理
 3. 地域コミュニティとしての
農業体験学習
「子ども農業塾」の提案
- おわりに

滋賀県 JAレーク滋賀 田村亜紀子

1/7

1. 現状の分析

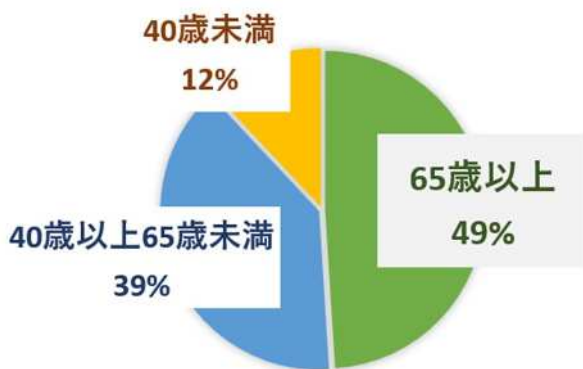
志津地区の現状

支店周辺の宅地開発が進む都市部

- ・ 子育て世代の移住による**人口の増加**
- ・ 支店管内の小学校→滋賀県下でも有数の**児童数の多さ**
- ・ 大学キャンパスの存在→**多くの学生**が行き交う

市街化調整区域指定の農村部

- ・ **進む高齢化**



世代別組合員割合

志津地区世代別組合員割合
→65歳以上が約半数を占める
でも・・・まだまだ元気に活躍



季節の絵葉書



菊の盆栽



女性部

組合員による作品展示

2/7

2. 志津地区における課題の整理

志津支店を取り巻く環境についてのSWOT分析

	強み	弱み
内部環境	地域に根付いた組織 親しみやすく身近な存在 農業を中心とした総合事業 JAというブランド力	組合員の高齢化 JA事業のPR不足 支店の金融店舗化 職員の経験不足・知識不足
	機会	脅威
外部環境	子育て世代の増加 子どもの増加 安心安全な食への関心 SNSの普及 地域に集う多くの学生	農業への関心の薄さ 次世代層の繋がり希薄さ 近所づきあいの減少 コロナ禍

課題



JAらしさ（農業を中心とした総合事業を行う店舗）のアピールを通して
 子育て世代を含む若年層の利用を拡充していく取組み

3/7

3. 課題からの提案

地域コミュニティとしての農業体験学習 「子ども農業塾」

地域の子どもたちの農業体験学習

- 対象・・・地域の小学生
- 活動内容・・・放課後の時間を利用し、
習い事の1つとして農業を学ぶ
- 活動場所・・・耕作放棄地や遊休地
- ・支店の空き倉庫を利用・農機具を共有して使用



仲間と共に楽しい農業体験

気軽に取り組める環境を整える

→子どもたちが自ら継続して取り組めること
 また挑戦してみようと思えることに重点をおく

アドバイザーとしての組合員の活躍

- ・長年の経験を活かし・・・子どもたちの農業の先生に
- ・自身の取り組んできた農業に誇りを持ち、伝承していく
 →生きがいに繋がる
- ・孫世代との料理教室・・・女性部の新たな活動の場



生きがい
 新しい活動の場

4/7

サポート役としてのJA職員

- ・ 窓口閉店後の活動
- ・ 活動の準備など、農作業のサポート
- ・ 子ども農業塾に参加→自らも農業に触れ実践的学習
- ・ 子ども農業塾を広める広報活動

→ **農家の社会的地位向上**
JA事業を幅広く知ってもらう機会に



実践的学習・知識の向上

子どもたちから親世代へ

- ・ 家族のふれあいの場としての貸農園
子どもたちから親世代へ農業の楽しさを伝える
家族と一緒に、育てる楽しみ・収穫する喜び

→ **子育て世代が農業に興味を持ち、**
関心を深める機会に



家族で取り組む貸農園



学生ボランティアの活用

- ・ 全体のサポート役としてのボランティア
- ・ 活動の準備、農作業のサポート、子どもたちの安全を守る
- ・ 幅広い年代との交流
- ・ 社会貢献活動を通して

→ **やりがいや喜び、自信に**
これからの人生設計を豊かなものに

幅広い年代との交流

5/7

子ども農業塾による相乗効果



高齢化した組合員の生きがい・喜び
子育て世代・若年層の農業への関心
職員の農業知識の向上・実践経験

6/7

放課後子ども教室

- ・学童保育の充実を目指した取り組み
社会問題・・・**小1の壁**
子どもたちの放課後の活動の場
→**地域住民との交流**
安心・安全な居場所づくり



- ・クラブ活動を
地域で支える
- ・学童保育の充実

- ・子どもたちの
人間力の向上
- ・健康寿命の延伸



現在の食農教育から一步進んだ価値を持った

「子ども農業塾」の取り組み

地域に根付いたJAだからできること